
結婚指輪物語
Tales of Wedding Rings
4
Presented by
めいびい

結婚指輪物語

TALES OF WEDDING RINGS


結婚指輪物語
Tales of Wedding Rings
めいびい
4

Tales of Wedding Rings

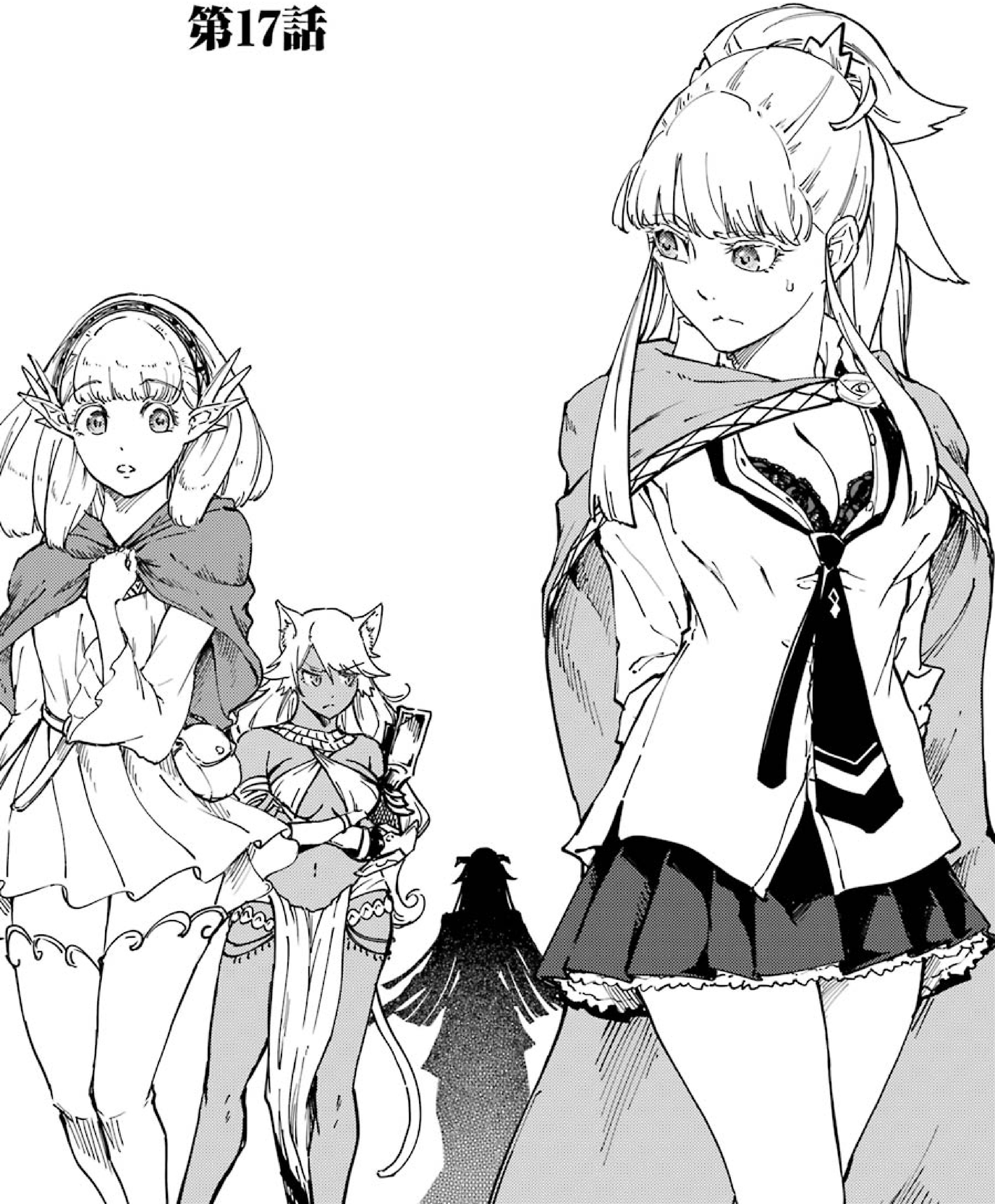
結婚指輪物語

4

Contents

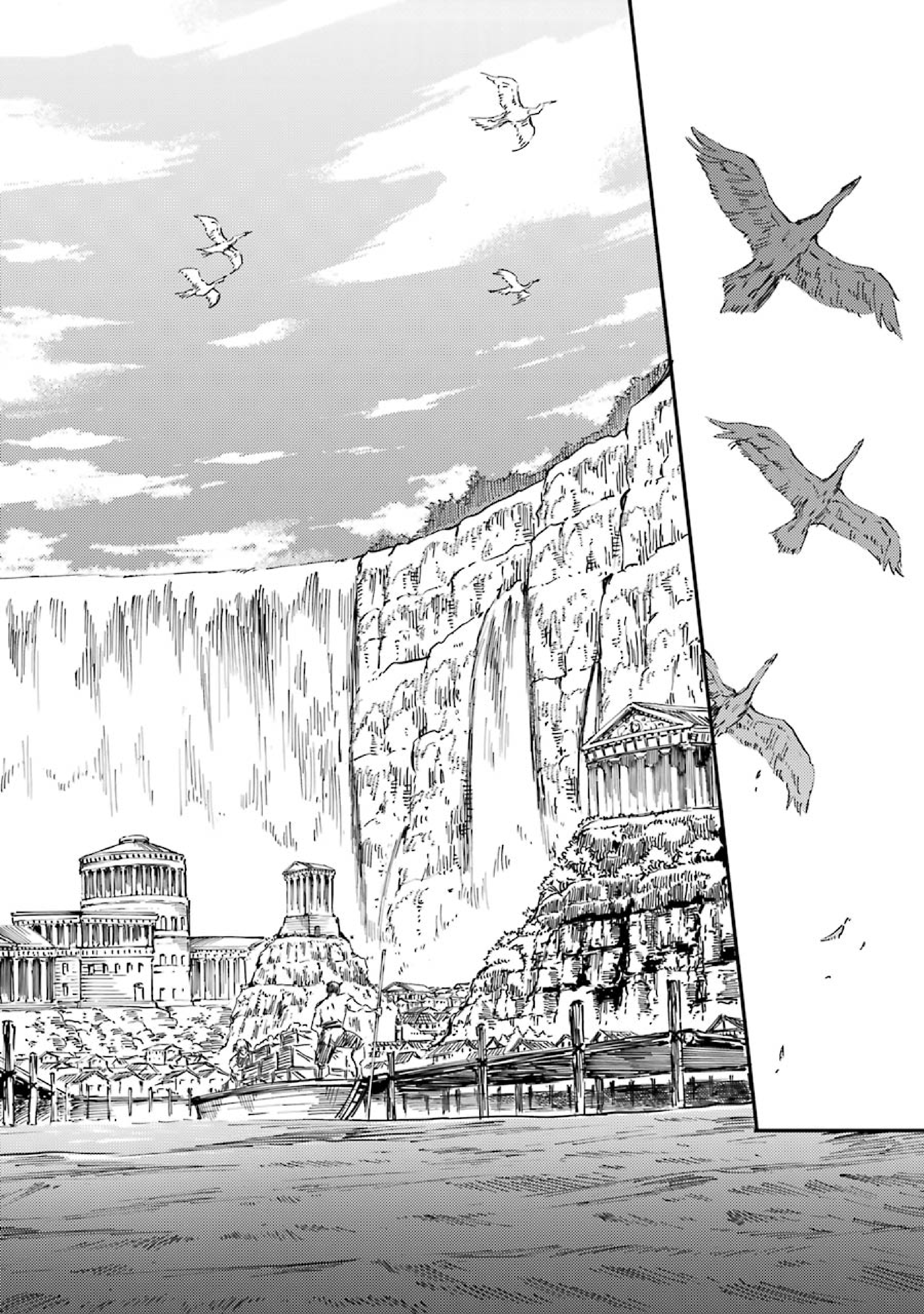
Presented by
MAYBE

第17話




タッ
タッ
タッ
タッ
タタタタ
ハッ…
ハァッ…
タタ
タッ…
ヒソ
ヒソ
いやだねぇ…
こんな街中で……


全員整列!!
フンッ…
帝国の人間風情がエラソーに……






世界の端っこって聞いてたけど……
賑やかな所だな
水の国
辺境とはいえ一番の都じゃからの
帝国には及ばずともいまだ引けを取らん
ふ〜ん……
…そうだ
そういえばマルスさんは？


何か事情があるようでの
この国には先に入っておるよ
そうなんだ…
水の国には行きたがってたしなやっぱなんかあるのか……
ザワ…
ザワ…
おいっ…
そこ 道を開けけんか!
ん?
ようこそ!水の国マーサへ!!
ダッ


貴方が指輪王様…
ですよね！
えっ……
俺っ!?
そうだけど……
わぁスゴーイ！
わたし大ファンなんです！


いやぁ〜照れちゃうなぁ……
へぇー…サトウ大人気じゃん
さすが余裕だね…
ほほほさすが指輪王
名声がここまで届いておるとはの
ばっ
握手してくださいっ!!
えっ…えっ!?
あっ
サインもいいですか!?
そうだお花!!
バッ
お花もどうぞ!!
それと……
コ・レ・も!


なんだ？
何だっ!?


くくくっ…


あははは!!!
噂には聞いておったが…
ぷふっ
なんと隙だらけの大マヌケか!! 指輪王!!!
なっ……


妾(わらわ)は サフィール・マーサ‼
水の指輪の君じゃ‼
今この時より貴様を我が夫としてやろう‼!
ええ〜〜〜っ…
こんなのってありか⁉?
早速のご助力感謝致します
水の指輪の君
ん 苦しゅうない
さすがに動じぬか大賢者
アリで
ぐっ
あとは…


火の指輪の君
グラナート・ニーダキッタ
武勇は聞き及んでおったが
なるほど色気も吹き飛ぶ納得の筋肉じゃな
ブルブル
ガクガク
風の指輪の君
ネフリティス・ロムカ
……は見当たらんようじゃな
……そして光の指輪の君
クリストル・ノバティ・ノカナティカ
ムスッ…
…ほう


ま
お姫様がたは適当に頼むぞ
どうせ深い付き合いになるでなし
なんだコイツは…
さて指輪王
こうして夫にしてやったのだから
いわばお主はこの水の国の王じゃ
もしかして…
内政とか外交とかしちゃったりするのか!?
そんなことは誰も求めておらん
しかし王たる貴様には
この国を平穏に治める責務がある
その覚悟はあろうな？
…やっぱ
そうなの？
そうだよ


あ……
ああ…
…ついて来るがよい
その力妾のため存分につこうてみせるのじゃ
のじゃ…っていうけど一体何があるっていうんだ？
このままでは妾の国
水のマーサは滅ぶ
!!


このような所に
居られたか
サフィール姫
……フン
もう
追いかけて
来よった


ここは危険だ
王宮へお戻り頂きたい
マーサに危険などあるものか
お主ら帝国が煽っとるだけじゃろうが
それに言われずとも戻るところよ
用事は済んだしの
?


ここにおるのは
指輪王
ぴとっ
今しがた
この男を夫とし
マーサの水の指輪を
渡したところじゃ
…!!
…別に
不都合は
なかろう？
………
承知した
…ひとまず
王宮へ
来ていただこう


ガタ
ガタ
ドドド
ドドド…
でけぇ…


大瀑布エウユマーサ
水の国マーサのまーさに象徴じゃな！
この滝を越えた向こうはかつての土の国…
モソ
モソ
ネフリティス
そして深淵王の潜む闇の領域だと言われています
へぇ〜
お〜〜っ…
アホみたいに口を開けおって……
こやつまことに指輪王なのか？
うん…
見るがいい
城下はどこもかしこも帝国の兵士だらけ
マーサの兵はもはや居らぬ


帝国…って マルスさんの 国だよな
良く覚えて おったの サトウくん
これぐらい はな！
…自信満々 じゃの
人類の最大国家 帝国ギサラス
多くの国々と 手を結び巨大化を 続けておる
…ってことは
さっきの おっさんは…
ギサラスの 第一王子
マルスの 兄じゃ
弟
兄
ええっ!?
ぜんぜん似てへん…


無敗将軍
スリュダー・ギサラス
皇帝の命を現実に変えているのはあの男
指輪の国こそ逃れてはいたものの多くの国を併合した実力者じゃな
帝国って…
結構悪い国なのか？
聞くまでもなかろう指輪王
これは支配侵略じゃ
深淵の魔物から守るためなどと口実に過ぎん
そういう見方をする者もいるが……
深淵王の復活に抗うため人の力を束ねているのもまた事実
武技を売り世界を渡る我ら猫人と違い国々の溝は目に見えぬ深さがあるからな


意外だな…こういうの詳しいんだグラナート
見直したか？
にやっ
ふんっ…
知った風な口をきくな獣風情が
ガタッ
ツーン
そういえばマルスさんは…
何か事情と言うのは…
帝国軍が居ることを知っておったのかの？
雲行きは怪しいのう…


ドドドドドド…
ここが王宮かぁ…
はー…
アホみたいだからやめなよ…



そろそろ…
来るか
なんだ!?
魔物の襲撃じゃ
またあやつの読みどおりか…
大丈夫なの!?
このために帝国軍が陣をしいておる
まだ城下にまで魔物が侵入したことは……
!!


サトウ!!
気をつけろ!!
馬鹿な…
なぜこんな所に!?


指輪王!!


どぉりゃあああ!!!






あ………
あぶなー…
これが…
指輪の力……!


指輪王サトウ…
こやつにならーー…！


魔物が…
魔物が来ておるのか…
怖い…
怖い…っ
わたくしが〝来る〟と申し上げたでしょう?
そのために帝国の方々をお招きしたのではありませんか


大丈夫…
何も怖くはありませんよ
おお…おぉ
そうよな……
お主に任せておけば大丈夫じゃ


なんかすごく小さいな…
色々と

結婚指輪物語

TALES OF WEDDING RINGS


兄上!!
これでは…
これではあんまりだ！
マーサには干渉しない約束ではありませんか…！
報告します！
サフィール様が戻られました！

第18話




…その男が
指輪王か
そうじゃ父上
たった今妾の夫となったサトウ……
…ん？下の名はなんじゃ？
……
まぁどうでもよいか
とにかく・・コレが妾が夫
水の指輪はこの男のものとなった
ざわっ…


……
妾を王宮に閉じ込め指輪を渡させまいとしておったようじゃが
お主の目論見もムダに終わったの
クスクス
閉じ込める…？
…さてなんのことでしょうか
フンッ…
牝狐(めぎつね)め
魔物の軍勢はすぐ近くまで迫っております
王族の身を守るため安全な王宮に居ていただくのは当然のこと
くれぐれも…今回のような勝手はお控え願いたい


現に先程のように魔物が城下にまで――
おーおーわかったわかった
雇われ軍隊も大変じゃの
しかしこれは困ったことになりましたわ…
…ねぇ？
おぉ…指輪王に指輪が渡ってしもうた…お主の予言どおりじゃ…
ならばこのうえ更なる災いが余の国に起こるというのか……
指輪王…
そなたが来さえしなければ…ッ!!!
ええっ!?
ぐヌヌッ…グェフッゲフンッ!!


あらあら
これ以上は
お体に
障りますわ
あちらで
休みましょう
ねぇ王様
ウヌヌーッ
あの怪しい
女の人が
サフィールの
お母さん？
そんなわけ
あるか！
あの女は
王宮付きの占術師
父上はいつからか
アレに頼り切る
ようになり…
あの
アリサマじゃ
かつては
賢王とも
称えられた
父上が…


指輪王殿
あっ…はい！
我ら帝国軍は魔物の軍勢に対し大討伐作戦を計画している
それが済むまで貴殿らは王宮内で大人しくしておいてもらいたい
いやっ…それなら俺も手伝います！
これでも魔物とはそこそこ戦ってるし……
無用だ


一人の持つ大きな力は
全体の歩調を崩す
その力を驕るなら
……なおさらだ
失礼する
フンッ…
ぶしつけな
しかしあの男の
言うことも
…もっともか


お姉様!!
どうして…
指輪の姫の使命をどちらが果たすかは
姉妹で決めようと誓ったではありませんか!!
…!?


すまんの
妾が勝手に
決めた
そんな…
ええと…
〝お姉様〟って
ことは…
こちらは
妹さん？
うむ
歳は
同じじゃがの
妾の双子の妹
サフィラじゃ


…双子!?
双子で…
お姫様!?
なぜですか
サフィール姉様……


なぜこのような
凡庸な顔の男などと!!
!?
お姉様ならばもっと素敵な殿方と結ばれることもできたでしょうに…
はっ
まさかわたくしを守るために!?
むごいっ…運命とはかようにむごいものなのですね…
双子の姉妹なのに喋り方が全然違うなぁ
ていうかこっちは普通だ
お言葉だが
サフィラ殿
サトウは仮にも
火の姫であるわたしを破った男だ


確かに戦士としては
ううむ…
かなり頼りなさ気な
感じだが……
フォローしてくれるん
じゃないのか!!
えと…
エルフのわたしには
人間の美醜は
わかりませんけど…
ネフリティス
まで!!
サトウは…
サトウは
カッコイイんだけど!!!
ありがとう
ヒメ!!!


なんにせよ サフィラは 指輪王と 結婚せずに 済んだのじゃ
なに 照れて んの…
気にする ことは 何も無い
お姉様…
サフィラ姫!!


えっ…
なになに？
なんか ヘンな空気…
こんなことに なった今 何を言っても 言い訳になって しまうけれど…
僕は あの約束を 忘れてはいない


それをどうか…
わかってほしい
あなたの声など…
もう
聞きたくはありません


ククク…
どの面下げて戻って来たのかと思えば
許しを請うことしかできんとは
相変わらずの甲斐性なしじゃの
マルス


待って
くださいサフィラ姫!!
サフィラ姫!!
マルスさん
ずっと前から
この国に来た
がってたけど
それって……
あの男とサフィラはの
互いを想い合い
愛を誓い合った
仲だったのじゃ
!!
何も聞かされて
おらんのか?
いかにも
あの男の
やりそうな
ことじゃ


ならば
妾が教えてやろう
我らがマーサと
アヤツの帝国ギサラスとの
関係を……
水の国マーサは
はるか指輪王の神話より続く
竜人の大国
かたや帝国ギサラスは
たかが数十年で力を得た
人間の国の新参者じゃ


分別を知らぬ帝国は人間の領域のみでは飽き足らず…
この地にまで手を伸ばしてきおった
まあ
小競り合いにすらならんかったのじゃが
手出しできんと悟った帝国は今度は交流を持ちかけてきおった
若き王子を大使として送り込んで…な
帝国第二王子マルマリギアス・ギサラスです
歴史あるマーサの知恵を学び
そして両国の友好の一助になれればと…


ほう…驚きじゃ
野蛮人にも礼節はあったか


最初はサフィラの一目惚れだったのじゃろうが……
二人が仲を深めるのに時間はかからんかった
ほう…
サフィラが気を許すか
二人の想いに偽りはなかった
……妾にはそう見えた
たとえマルス王子に秘めた使命があったとしても…


寂しそうですね
わたくしたちのことを考えておりました
マルス様は帝国の王子
そしてわたくしは指輪の使命を負う身
…わたくしたちは結ばれることは無いのだと…父に言われました
マルス王子の使命
それは立場を利用しマーサの内情を帝国に知らせること
サフィラの心を奪い王宮に深く入り込んだ今
いくらでも欲しいものは手に入っただろう


じゃが
アヤツは
それをせなんだ…
マルス様
いっそ
わたくしを
攫ってください!!


今は待っていてほしい
いつか必ず迎えに行きます
信じております…
マルス様…
役に立たぬものを捨て置く皇帝ではない
マルスは帝国へと呼び戻された
…それから数か月後のことじゃ
お姉様…！
サフィールお姉様！


マルス様からの報せ(しら)が………!!
「わたしは皇帝の命により指輪王となります」
「これであなたを迎えに行くことができます」
指輪王の使命に歪んだ婚姻であっても
好いた相手と結ばれることができる……
指輪の姫として生を受けた妾たちにとって
それは望むことさえ赦(ゆる)されぬ幸運だったのじゃ


…だが
マルス王子は
指輪王の役目を
捨てた
異界より現れた
どこの誰とも
知らぬ男に
指輪を託した
と――
アヤツは
サフィラとの
誓いを
捨てたのじゃ


サフィラ姫!!
もう一度…
もう一度だけ聞いてください!!
僕の心はあの日から少しも変わってはいない
あなたの元に残してきたままだ……
ならばどうして…
どうして指輪王になってくださらなかったのですか!?


それは…
僕には…
その資格がない
そう……思ったんだ
サフィラはあなたの心がわからなくなりました…
もう……あなたとは二度と会うこともないでしょう



その後のことじゃ…
あの占い師が現れおったのは
不吉な予言をするあの女のことなど
初めは誰も信じてはおらんかった
実際にアヤツの言うとおりになるまではな…


魔物を追い払うにはあの占い師の予言が役に立つ
父王はアヤツを側に置くようになり…
ザッ
ザッ
今この有様…というわけじゃ
アイツが…
帝国の回し者ってことか？
確かなことは言えん…が
何がしかの関係はある…そう思っておるからこそ
妾はあの牝狐の尻尾を掴みたいのじゃ


サフィールめ…やってくれたわ
指輪王を招き入れ指輪を渡してしまうとは
まあ良い
もはやマーサは我が手中も同然
敵陣に飛び込んだ指輪王に道はない
指輪王を殺せ
指輪を奪え
全ては偉大なる王のために
…ハッ!!



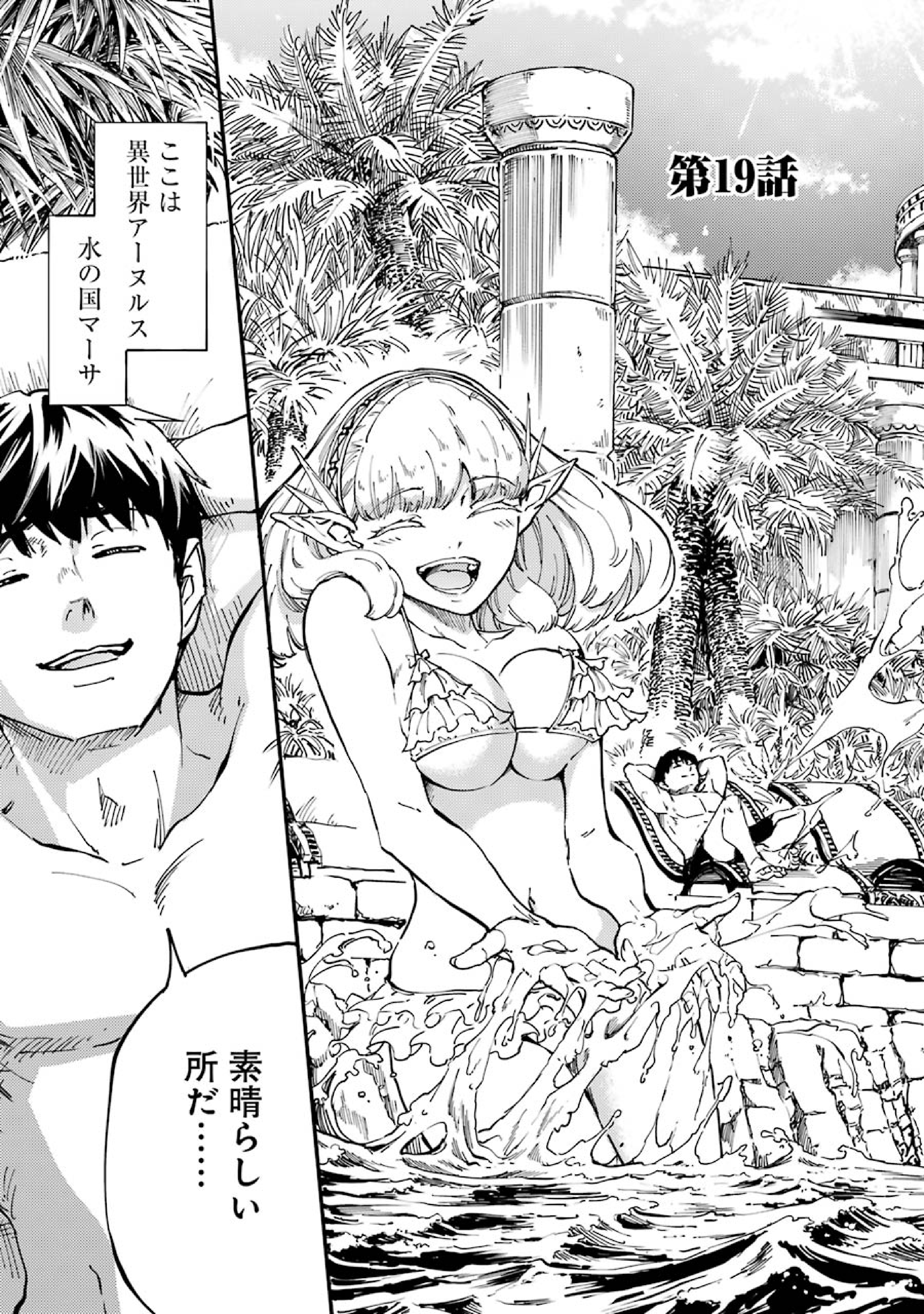
さっきは"ガッコイイ"って言ったけど
"見た目"のコトじゃないからねっ!?
ゥッ
わざわざ取り繕わんでも…

結婚指輪物語

TALES OF WEDDING RINGS


青い空!
白い雲!
真っ赤な太陽!
そして――




第19話
ここは
異世界アーヌルス
水の国マーサ
素晴らしい
所だ……


『竜人』
神話に語られる
竜の末裔と
自らを称する種族
エルフに次いでの
長命であり
頭部に角が
生えているのが
大きな特徴である
体温調整が苦手で
体温が下がると
身体の動きが鈍るため
日光浴をして
身体を温めることから
一日が始まる
――とはいえ
今の竜人にとって
それは半ば習慣であり
竜の血が薄い彼らは
せいぜい朝に弱い
という程度である
だが
この習慣こそが
竜の血を引く
彼らの誇りなのだ


…まあ 有り体に 言って
トカゲ 人間じゃな
日光を 浴びるために 薄着をして
上がりすぎた 体温は 水で冷やす
じつに 効率的な 習慣じゃ
キャ
キャ
郷に入っては 郷に従え…
ああ……
素晴らしいな


グラナートもああしてるけど…
猫人はひなたぼっこが好きなだけじゃよ
ヒメたちとあっちで遊ばないのか？
ああ…わたしはいいんだ
じっ…
ところでサトウ…本当にいままで武術の心得はないのか？
……？ないけど？
戦士として頼りないと言ったがなかなかどうして…


見れば見るほど…
ますます子を作りたくなってきた♡
な!?
どうだ？今夜あたり…
お前となら強い子が作れそうな気がするんだ
いや…ほら！だから順番が……
それはクリストル姫が言っているだけだろう？
ちょっとそこ何してんの――!?


ガバッ
ギュムッ
わたしが一番だって言ってるでしょ!? ね! サトウ!
もちろんでございます
フンッ… 嫁になった順番などなんの意味がある
夫をその気にさせた者こそが勝者だ!
な…なに!? ぽっと出がエラソーに!!
わたしなんてもうサトウと10年の付き合いなんだから!!
その10年でなんの進展も無かったのだろう?
!!
待ち続け受け取るだけの愛など弱い!!
そしてサトウへのわたしの愛は強いぞ!
絶対に愛されてみせる!!!


バチ
バチ
わたしは何番目でも構いません
ず〜〜っとお待ちしておりますからね♡
サトウ様
ホホホ
長命な種族は気長じゃの
あーーっ!!
やれやれ…
救世の王とその姫君たちが聞いて呆れるわ…


バババッ
見事なアホばっかりじゃの
さ…サフィール…その水着は……!?
ギリ…
ギリ…
…ん?
ここは妾の庭いつもは裸なのだが…
気を使ってやったのじゃ
ミチ
ミチ…
エグっ!!



それはそうと
お主ら
そんなに
序列を気に
するのなら
いっそ
なんらかの
勝負で
決めてしまえば
よかろう
それだー!!
えー!?
フフン…
まあ剣術で勝負
というのも
大人げないしな
手段は
選ばせて
やろう
ニヤ…
じゃあ
あそこまで
一番速く泳いだ
ものの勝ちで
なにっ!
それは…
!!
えいっ
パシャ
にゃ!!
やめろーっ!!
耳に水が入るのが
イヤなんだ!!
もしか
して…
苦手なの?
なんだかんだで
仲良いな…
あのふたりは
プッ…
…やっぱり
アホばっか
じゃの


序列がどうのこうの…
減るもんじゃなし子種など嫁全員にくれてやれば良かろう
どっこいせ…
それも王の甲斐性というものじゃ
ぶっちゃけたな…！
ところでサトウよ
思うたのじゃが…
？
ばいーーん…
ぱいーん…
ぼいん…


嫁がみなでかいのはお主の趣味か？
いや別に俺が自分の趣味で選んだわけじゃないし!!
そりゃまぁ…？
どちらかと言えば好きな方だけどね……
それは良かった
なら妾は安心じゃの
!!
ない――ん…
妾はお主に愛されようとは思わぬ
ただお主が役目を果たしてさえくれればな
あまり気を抜くでないぞ指輪王


あの占術師にとってお主は邪魔な存在のはず…
恐らく刺客を差し向けてくるはずじゃ
しかしそれは同時にあやつの尻尾を掴む好機となる
こうして油断したフリをしつつもしっかり警戒しておくのじゃ…
…これはフリだったのか!?
普通にバカンスしてたわ!!
…ホントにこやつ大丈夫なのか?
……


こっちに来てから何が楽しみってメシだよな
色々と変わったモノが食えるし
はぁあ…
カチャン
向こうの食事も良かったのにのう…
白飯がなつかしい…
…って犬じゃないんだから…
ほわわ…
おー美味そう…!
待て
この城内はもはやアヤツの領域じゃ
出される料理も安全とは限らぬ
食うな


!!
チッ…
ふむ…
わずかだが…サトウくんの分には一服盛られておるようじゃな
くんくん
……!!
がくーっ…
命を狙われて肝を冷やしたか？
俺の…俺の飯があぁ…
そんなに食いたかったんかい


大丈夫!!
サトウが食べる分は作ってきたよ!!
ヒメ!!
ネフリティス!!
米と…
魚だ!!!
まるで和食!
親しんだ味!!
マーサはお米が採れるんだって!
わたしもお手伝いしました!
ぱく
ぱく
うぉおおおお!ありがたいいいいい!
サトウ……がっつきすぎ…
庶民的な指輪の姫もいたものじゃの
くっ…


ん♡…
スャスャ…


うーん…
なんとうらやま……いや
無節操な男だ…!
しかしあの状況で眠れるというのは
ある意味大物かもしれんな…
だがアイツもこれで終わりだ!
…いや 待て! 一人足りなくないか?
あの猫人の……
本当に寝込みまで襲ってくるとはな…
水の姫もなかなか鋭い
!?
角が無い…
ただの人間か?


くっ……
ザッ
ヴァ…
ミ
バッ
…しまった!
タタ
タタ…
やはり……
帝国の回し者なのか……?


暗殺者!?
ああ 取り逃がしたが…
もう同じ手は使ってこないだろう
はー ホントに居るんだな…
ギリギリギリィ…
やや強引な手だが… 致し方有るまい


カランッ
カランッ
ニヤ…
……!!


いいんだろうか……
こんなに
リラックスして
いて……
まぁ何事も
起こらなきゃ
いいけどな……
ね サトウ
ちょっと
いい？
ちょんっ
…ん？
ヒメか……


久しぶりだよね……
こんなにゆっくりして……
ああ……
トッ…


こっちに来て…
なんか色々バタバタしてばっかりだったけど
何事も無きゃこんなに良い所なのにな…
もったいないよ
サトウの世界だって…良い所だよ?
…そうかな
まぁ俺は…
ヒメと一緒に居られれば
それでいいんだけどさ
ポン…


ねぇ
サトウ……
マルスさんと
サフィラの
お話なんだけど…
どう
思った？
…え？
ああゆう
王子様と
お姫様の
お話って
やっぱり
ロマンちっく
だなく〜って…
もにょ
もにょ
それでね？
わたしたち
だって……
う〜ん
まぁ…
ありがちな
話だなって
思ったよ
バリバリ
はあ!?
プル
プル
プル
気の毒
だけどさ
ああゆう
いかにも！な話って
あるもんだなーって…
なに…それ……？
プル
プル
…もう
いい!!
は!!
…？
プィ
スィ!!


しまった…
ヒメもなんだかんだ女の子だもんな……
……あ！
マルスさん！


……
やあ……
マルスさんも日光浴？
そんなところだね
…なんか大変っすね
……君もね
マーサがこのようになってしまったのは…半分は僕の責任だ
すまないと思っているよ
俺……聞いちゃったんですけど……


マルスさんは…
どうして俺に指輪王の立場を譲ったんですか?
譲らなきゃ…サフィラさんと結ばれたのに
………
自分には荷が重すぎる… そう思っただけさ
…それだけなんですか!? ……本当に
それだけ大事な事情があるなら…
俺から奪ってでも良かったんじゃないですか!?
重なったんだ…… あの時のクリストル姫の顔がサフィラに………
ビクッ…!


心の底から愛する者と
再び逢うことができた…
あの………
その気持ちを
知ればこそ
邪魔なんて
できないだろう？


自らのためなら他を押しのける…
それができないのが僕の弱さ
父から出来損ないと言われる所以だ
それに比べれば…君はすごいよ
クリストル姫のために…全てを投げ打ったんだ
やはり指輪王となるのは君のような男がふさわしい


指輪王はともかく…
大賢者と火の姫はかなりの手練れ
…しかし次こそは！
そう…
簡単にはいかないものね
では…
別の手を考えましょう
パチッ


兄上!!
やはり…
考え直してはいただけないのですか
水の国への援軍は皇帝のご意思だ
お前が父に直接訴えればよかろう
それは……
僕には…できません
そうだ今のお前にその資格はない
指輪王となる命に反した罪は赦されてはいない
お前の行いは民衆を不確かな伝説にすがらせ
帝国のもとに一つに束ねる妨げとなった
指輪は皇帝の元にあってこそ世界を守る力となるのだ
だが…
指輪王の信頼を得その動きを報せるお前の働き
父は償いとして見ておられる
いつか赦しも得られるだろう


父のご期待に応えるのだ マルス
お前の帰る場所は帝国ギサラスの他に無い


……なんの
用ですか
指輪王を
殺して
しまいなさいな
そして指輪を
奪うのです
何を……
これは皇帝陛下のご意思
あなたに指輪王の信頼を
得させたのは
この時を待ってのこと


三日の後魔物の軍勢がここマーサを襲うでしょう
その戦いに紛れ…指輪王を殺すのです


一緒に寝るのは
敵をだますため
だから…ぬ！
お…おっ
キャーーッ!!!
サトウのドキドキが
聞こえる……!!

結婚指輪物語

TALES OF WEDDING RINGS


指輪王を殺し
自らの過ちを正すのです
マルス王子
第20話
されば
皇帝の赦しを得
愛する姫も
手にできる…
わたくしには
未来が見えるのです


…あなたは何者だ
やはり帝国の間者か
フフフ…
わたくしはただの占術師でございますわ
あなたの未来を見るのも
皇帝のお心を知るのも
ただわたくしの占いはよく当たりますする
かの魔物の襲撃のように
ニヤ…
全ては占いの結果
…………ッ


あの指輪王は外界より現れた異物
この世界にふさわしい者ではありませんわ
元々はあなたが指輪王になる資格を持っていたはず
何も気に病むことはありません
それとも
また皇帝の意に背かれるのですか？
!!
良くおわかりでしょう
妾の子であるあなたの価値はその地位の他に何も無いということ
愛する者すら失ったあなたにはもうそれしか残されていないのです


スッ…
………?
これは魔素の流れを捻じ曲げる剣
伝説にも謳われたいにしえの魔道具
あなたに差し上げますわ
どうして…
こんな物を持っている?
なんの力も持たないあなたでも…これで指輪王に後れを取ることはないでしょう
……良いではありませんかそんなこと


指輪と共に
帝国にお戻りに
なられること
お待ちして
おりますわ
…それでは
ごきげんよう
……


父のご期待に応えるのだ
マルス
これは皇帝陛下のご意思
僕は……
どうすれば……


あれだけのお膳立てをしても
辺境の国一つ手に入れられんとは…
…大臣どもがお前をなんと呼んでいるか知っているか？
『出来損ない』だ
……近々指輪王の候補となる者を選ぶ
所詮は黴の生えた昔話…とはいえ民の心を得るには良い素材だ
この程度のことならばお前でもしくじるまい…
お前の価値は我が子で有ること
ただそれだけだ
お前自身の価値を示せ
マルマリギアス




僕は………
僕はいったいなんのために…
父の信頼も…愛する者も…
何もかも僕は失ってばかりじゃないか……
指輪王を殺してしまいなさいな
されば皇帝の赦しを得愛する姫も手にできる
そうだ……
僕にはこの道しか残されていないんだ


…本当に俺は行かなくていいのか？
それはお前の役目では無い
万が一のため——
お前のような者はそのために存在するのだ
我々はこれより魔物の討伐作戦に出発する
ザッ
………


……ここは
頼んだぞ
あ……ああ…………？
サトウ！


わたしたちは安全な場所に居ないといけないし…
あの…その急なことになるといけないから……
もにょ
もにょ
…なに？
……っ
もうっ！
気をつけてね……


あ…ああ
照れないでよ…恥ずかしい……
いやぁ…まだなんか慣れないっていうか
ならばわたしからもひとつ力添えが必要だな
!!!
ちょっ…グラナート!!
なんだ?わたしもサトウの嫁だぞ
何かおかしなところでも?
ないけど!!ないんだけど…!!
こちらは任せて思う存分戦って来い
あの…それではわたしも…
ネフリティスまで!?
だめなんですか……?
うるっ…
ずっ…


ニャニャ…
あぁ～…ネフリティスまであんな積極的に……
じゃ…じゃぁわたしだけもう1回多くするから…！
わたしだけ特別‼
クリストル様ずるいです‼
呆れすぎて声も出んわ……
はあああぁ…
指輪王との絆は力
望んで力を与えられるのならば良いことではありませんか
そうかのう～…？


魔物は必ずここにやって来る
その混乱に乗じれば…指輪王を殺すのもたやすいこと
期待しておりますよ…
出来損ないの王子


ご報告！
右翼 左翼とも
戦列を押し上げて
おります！
そうか……
魔物の群れは
奇妙な程に
占術師の予言
通りですが…
この調子であれば
戦は勝ちも同然……
スリュダー様!!
ザッ


巨大な魔物が一匹……想定外の場所に現れました!!
陣を敷いた場所とは正反対です!!
このままではマーサ王宮への侵入を許してしまいます!
部隊を分け王宮へ向かわせましょう!!
いや……我々はここを死守する
王宮は……大丈夫だ


なんだっ!?


コイツは…
ここに来る時に出たヤツの親玉か!?
見たところ一匹だけのようじゃな
スッ
…


サトウくん!!
バッ
!?


マルスさん!?
指輪王…
悪いけど君には
ここで
死んでもらう


いかん……!!
こちらはワシに任せい!!
サトウくんはマルスを頼む……!!


マルスさん…
本気なのか？
指輪王を殺し
指輪を帝国へ渡す
それが…帝国王子である僕の使命……
僕にはもう…
この道しか残されていないんだ‼
ちょっと待て…
わけがあるんだろ⁉
事情を聞かせてくれっ‼


君は
言っただろう
大事な
事情があるなら
奪えばいいいと
キィ
ーンッ
僕にはやはり
必要なんだ
その
指輪が…！
君たちを
導いたのも
信頼を得たのも
全ては
この時のため
指輪王…
帝国のため
君を倒す


サトウくん
様子が
おかしい…！
マルスは
正気では
ない!!
恐らく
操られて
おるんじゃ!!
じゃあ
どうすりゃ
いいんだ!?
聖水でも
ぶっかければ
治るのか!?
!!
わからん!!
わからんが…
ひとまず動きを
止めるんじゃ!!
相変わらず
肝心なところで
役に立たない
じいさんだな!!
ベー…っ!!


俺の剣の腕じゃ
マルスさんに
敵うわけがない！
直接稽古をつけて
もらったんだから
……わかる!!
だったら……
少し怪我
するかも
しれないけど…
我慢
してくれ!!



魔法が受け流された⁉
どういうことだ…⁉
魔素を捻じ曲げる剣か…
あのような出来損ないを持ち出して来るとはな…
懐かしいものを持っている
…しかしあの出来損ないの若造にはお似合いか
!!
やっぱりだ…指輪が話しかけてきている‼


躊躇うことはない
本気を出せば指輪の魔力なら圧倒できる
跡形もなく消し飛ばしてやれ
はぁ!? そんなこと…できるか!
殺されてもいいのか?
うるさい…黙れ!
できないもんはできない!!
自らの力で障害を排することの何に迷う?
…とは言ったもののどうすれば良い?
愚かな…
本気を出せば…指輪の言う通りになるかもしれない
かといって手を抜いて敵う相手じゃ――
!?


そうだ…
敵う相手じゃない
マルスさんには
敵わないはずの俺が
どうして今まで
無傷で済んでいる？
やっぱり…
マルスさんは
マルスさんだな


サトウとマルスさんが戦ってる!?
どうして……？
わからんが…指輪王の指輪を奪おうと……


剣を下ろした!?
馬鹿め…死ぬ気か!?


やっぱりそうだ…
迷ってますよね？俺を斬ること
マルスさんは優しい人だ


わたしだけもう一回多くするから……!わたしだけ特別!!
クリストル様ずるいです!!
あ〜……
こんなアホ共には混ざりとうない……

結婚指輪物語

TALES OF WEDDING RINGS


第21話
…僕を斬れ サトウくん
愛する人に見限られ…
帝国の王子として使命も果たせない出来損ないだ
ポタッ
ポタッ
あまつさえ…
君までも傷つけてしまった
僕にはもはやなんの価値も――


俺は・・・
マルスさんのこと
好きだぜ?
ガばっ
ええっ!?


…正直
マルスさんが
いなけりゃ
俺はこっちに来て
すぐ終わってた
マルスさんの
優しさに
助けられたから
ここまで
来られたんだ
価値がないって
言うんなら…
俺がマルスさんの
価値になろう
伝説の指輪王と
世界を救う仲間
こんなに
価値のあることは
ないんじゃないか？
…俺には
マルスさんが必要だ
俺の
仲間でいてくれ
君が…
僕の…？


柄の宝石を打て……！
!!
パキ


…ちぃっ!
どいつもこいつも…
役に立たない!!
ぬうっ…
魔法がもたーん!!
えっ!?


しまった…
宮殿へ!?
ヒメっ!!


サフィラ!!



人質のつもりか……!?
せっかくの贈り物も台無しですわね
マルス王子
ウ…
やはり魔物とつながっておったか…
剣に呪いをかけた張本人といったところかの
心の枷を外し願いをほんの少し強めるだけのもの
呪いといっても大したものではありませんわ
あなたにはよくおわかりでしょう?マルス王子


妙な真似をすればサフィラ姫の命はありません
どうです？指輪と交換しませんか？
…確かに
僕はサトウくんをうらやみ
命すら奪おうとした…
だけどそれだけが僕じゃない
サトウくんが身を挺して教えてくれた
もう二度と迷うことはない


僕は僕自身と大切な人のために生きると決めた
僕は自分の選ぶ道を行く
それが僕の価値だ
サフィラ姫!!


僕と結婚してください


……は？
何を…
馬鹿なことを…！
そいやぁ!!


こんな時に
ずるいです……
すまない……
待たせてしまって
マルス様……


おのれ…
おのれ…ッ
姑息な手を使いおって!!!
ヴァアッ

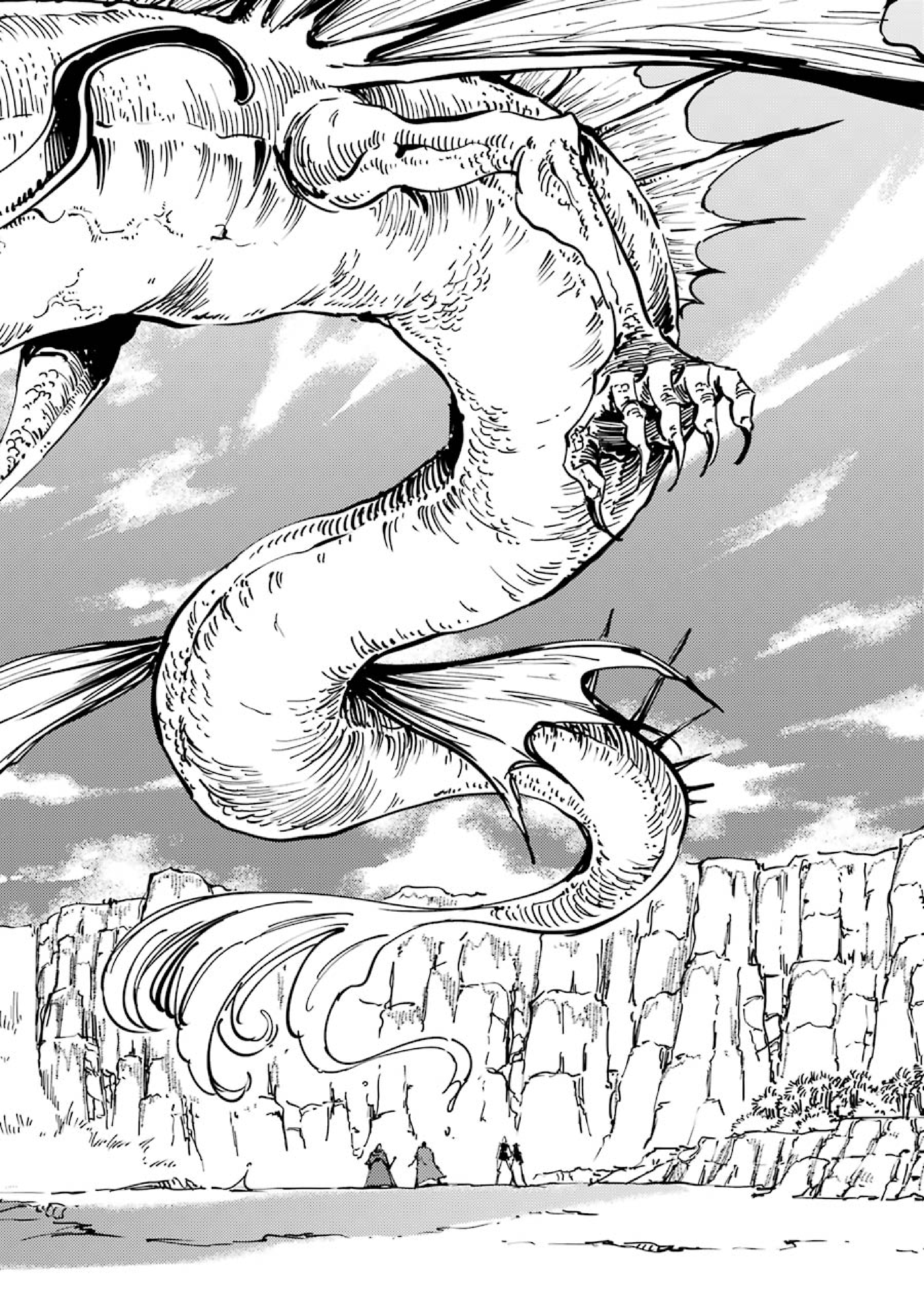

王が完全に目覚められるまで遊んでやるつもりだったが…
お前たちの世界の理に付き合うのはもうやめだ
深淵へと帰るがよい!!!


なんじゃこりゃ――!!
ガー!
正体を現しおったか…深淵王の騎士…!
まったく………
ドッ
やはりお主はアホじゃの
お人よしがすぎる


じゃが…
良い
アホじゃ
少し
借りるぞ
お主の
力




生命の根源たる
水を操る
指輪の力…
竜人の真の力を
思い知るがいい






鳴った!?
もっちもっち…
キィイイン…
ギロ…


!!
逃げおったか………
すげえな……
これ……もとに戻るのか!?
うわあっ!?


あたりまえじゃ
え…えっ!?


翌日──


THANK YOUUU!!!
よくぞ我がマーサを救ってくれた!!
ワァ!!
…誰?これ
父上じゃ
えぇっ!?
あんなにしおれてたのに…
深淵王の騎士に心を暴らされてはおったが
全て見ていたぞ
指輪王伝説の力確かなもののようだな
指輪の民としてマーサはできる限りの力を貸そう
あっ…ありがとうございます!


そして
帝国の方々
よくぞ
マーサを守って
くださった
だがこの後
水の国は
自らの力で
守っていこう
余はマーサを
一人で守らねば
という想いのあまり
奸賊の手に
落ちてしまった
しかし今は
帝国という力強い
盟友を知った
あのようなこと
二度とはあるまい
それが
何よりです
力が必要な時は
ふたたび
馳せ参じましょう
王の意思で
お呼び
ください
…うむ


苦労をかけたな
サフィール…


なんだかんだ素直なとこもあるんだな…
…そして良き夫も見つけたようだな
はあ？
こんなもん魔力をもったただのアホじゃ
父上もまだ眼は腐ったままのようじゃのう
そ…そうか……


ズッ
ここに居る皆に証人になってもらいたい
指輪王の騎士マルマリギアスとして水の王にお願いがあります
サフィラ姫をわが妻に!
ザッ
嬉しいことは続くものだ
待っておったぞマルス王子…いや今は騎士マルスか
…そなたが去りサフィールに諭されるまでサフィラの心に気づきもせなんだ
国を気に掛けるあまり大切な娘を苦しめるなど…父としては失格だな


娘を…頼む
…はい!
ヒュー
ヒューッ


いいなぁ
ああ
ゆうの
わたしも
あんなふうに…
なりたかった


サトウくん……！
お先に
ニコッ
……？
何が「お先」なんだ？
結婚なら俺たちの方が先に……
あっ…
！！
まさか……


やっ・た・の・か!?
ベタ ベタ
ベタ ベタ
兄上…!
あの占術師と魔物 そして 帝国との繋がり…
俺の知らぬところで何かが動いているようだ
早急に帝都に戻らねばならぬ


マルス…
いつかきっと帰ってこい
俺は待っている
…はいっ


マーサは
手に入らなかった
ようだな
ええ…
一度は
帝国の支配下に
置いたのだけれど
あの小娘め…
だけど
あのような国
皇帝陛下には
取るに足らないもの
じゃありません？
魔物を動かす
わたしの力と
皇帝陛下のお力を
合わせれば…
もっと
たくさんの国を
手に入れられ
ましょう？


そう…
あなた様にはそれができる
あなたの欲望を見せて…


マーサ王の次は
我を狙うか
利害が合えばこそ
話を聞いてやったが…
やはり
古い物は
駄目だな
貴様ッ…
全て…
知って
いたのか…！
今は
神の世ではない
人の世だ
邪魔者は
全て
駆逐するまで
それが深淵王だろうと
指輪王だろうと…


私はいつでも良いんだぞ？
男として悔しくないのか？
…ん？
やれやれ…


つまりエェ～マルスさんはサフィラと致してからお父さんに挨拶したってことだよね
そーっだね…
それって筋が通ってなくない？
ごめん…


番外編『異界の下着』
ゴゴゴゴゴ…!!
あれ…無い……
わたしのブラが無い!!
ネフリティス何してるの!?
これが…クリストル様のいつも着けている……!
これは…なんというものなのでしょう!?
ぶ……ブラジャー……だけど
めっちゃ興味持たれてる!!
…良かったら着けてみる?
いいんですか!?
たぶんサイズは同じくらいだよね…


このようなものわたし今まで着けたことがありません…
これが異界の肌着なのですね！
ちょっと締め付けられて…
不思議な感じ
身の引き締まる思いですね！
ぱぁあ
ほっこりする…
カワイイなぁ……
そうだネフリティス!! ついでだからこの制服も…
ひぃ…
せいふく…？
やっぱりカワイイー!!!


いかにも女の子って感じ…
これはサトウには見せられないな
どうですか？
負けてしまう…
くるり
何をしてるんだ？お前たち
グラナート!!
…ん？
わたしには少々小さいと思うんだが…
ギャルだ…
黒ギャルだ……！
あの伝説の……!!


それにしてもなんだこの下着というのは
窮屈だし…だいたい服の下にこのような派手なものを着けて意味があるのか？
はぁ
スルッ
いや…本来下着っていうのは見せるものじゃなくってぇ…
…？お前はいつも見せているじゃないか少しだけ
わたしが聞きたいのは派手なものを着けるならば
なぜ堂々と見せないのかということだ
…え？
それは少し見えてるのが逆に良いっていうか…
そ……その…せ…セクシー？っていうか……？
ああ そうか
つまり指輪王(おとこ)を誘っているのだな
!!!
苦労しているのだな…
アハハハ
お前も
カァ〜〜〜
その後──
数日の間ヒメの胸元のボタンは上までしっかり閉じられていた
ぴっちり
なんかいつもと雰囲気が違う……
ムッ…!?

結婚指輪物語4巻

あとがきページ

やっと出ました4巻!!
この巻は水の国マーサ編ということでしたが、
これまでとは少し違う感じの内容にしてみました。
マルスがお話の中心だったり、
新しい指輪の姫のサフィールはあまりサトウに興味なかったり…。

もちろんサフィールもヒロインのひとりなわけですが、
他はみんな積極的なので、ひとりくらいは一歩引いたスタンスの
キャラが居ても良いんじゃないかと思い、そうなっています。

もちろん、これからどうなるかは分かりませんが…!

次の5巻でようやく指輪の姫のヒロインたちが揃います。
おかげさまでここまで順調に続けてこられたので、
ヒロインが揃ってからもしばらくお話は続けられそうです。
むしろ、それからが本番ですからね!!

それでは、次の5巻もお楽しみに。
今度は早く出せると良いですね。

めいびい

次のページは…
『アーヌルス博物誌』

しかし，ある竜人の協力者を得てくまなく全身のありとあらゆる箇所を徹底的に調べたところそれらしき物は無く，ただの噂話にすぎない事はすでに確認済みである．

竜とは竜人が彼らの祖先と信じる神獣である．天を覆う巨体で大空を自在に駆け，水を操り，頭を噛まれると一年健康に過ごせるとされている．昔話に語られるドラゴンと同一視される事も多いが，竜人の伝承を正しく読み解き，誤解を恐れずに言うならばその正体は『空飛ぶ大ウナギ』に他ならない．
「世界を三周する長い体」「どこまでも続く長い体」「はげしくぬるぬるした長い体」など，あらゆる伝承に共通するのはその長大さへの賞賛であり，ぬるぬるして長い生き物といえばウナギであろう．いずれにせよ，神話の時代より前の生き物など誰も見たことは無く，竜の姿を知るには先祖返りが現れるのを待つか，あるいは竜人王家に伝わる祖竜降臨の秘儀を垣間見る機会を得るほかないだろう．なお，異世界にはウナギの蒲焼きという美食が有る事をここに記しておく．

食を見て国を識る．大河とその水に恵まれた農地を擁するマーサは独特の食文化を持つことで知られる．主食の米は生育に多量の水を必要とするが小麦よりはるかに生産性の高い優れた作物である．また，交易の中心地であるマーサには様々な食材がもたらされ，マーサで食べられぬ名物無し，とまで言われている．特にニーダキッタの巨大隊商が訪れた後は様々な食材や特産品の売買でマーサの食卓はさらに豊かなものになる．

様々なシー・スーの姿
魚の裏表はどちらでもよい



生魚を食べる習慣が無い土地の者には敬遠されることもある

そのマーサ究極の美食とされる料理が「シー・スー」である．新鮮な魚を開き，蒸した米を乗せただけの一見簡素な料理だがそれゆえに素材と料理人の手腕が問われる．味付けは魚にビネガーを用い，好みでガルムやソイソースをつける．大河のもたらす肥沃な土地でとれる米と，豊かな水の恵みである魚との融合は，まさにマーサのすべてを味わえるといえよう．

アーヌルス博物誌

水の国マーサは竜の血を引く高貴なる民，竜人たちの水上国家である．古くより人間世界から辺境と呼ばれてきた地域を治める大国であり，水運を生かした交易で栄えた大市場でもあった．辺境の小国や村々から信頼の置ける市場とされてきたのは，ひとえに誇り高き竜人によって公正な取引が徹底されたためである．大瀑布エウユマーサのふもとに位置し，周囲を高い崖に囲まれているため防備も固く，古き神話の戦いにおいては火の国ニーダキッタを滅ぼした深淵王の軍勢を押しとどめた最後の砦でもあった．ただしその立地はひどい湿気との戦いを余儀なくされるものであり，水辺を好む竜人以外にはとても過ごしやすいとは言えず，旅人や商人は用を済ませるとできるだけ早くマーサを出ようとしたという．こうした人の出入りの多さも大交易地たる所以であることは想像に難くない．

竜人は指輪王と深淵王の時代より遙か古の世界を支配したと伝えられる『竜』の血を引くとされる種族である．とはいえ現在の竜人にその証があるとすれば，頭に生える角と長い寿命程度しかない．彼ら竜人に言わせれば，長い歴史で血が薄まったためであり，むしろマーサの歴史の深さを示すものだという．竜人は体温調節が苦手なため，暑ければ水に入って体を冷やし，体が冷えれば日光を浴びて暖めるという特徴的な習慣を持っている．しかし，命に関わるほど暑さ寒さに弱いのか，というとどうやらそうでは無いらしく，せいぜいが体がだるくなるという程度の物らしい．現在の水浴びと日光浴は慣習や娯楽としての側面が強く，時には美酒や美食とともにたしなまれ，社交の場としての役割をさえはたしている．ともすればぐうたらとも見られる体質とそれを補う習慣を優雅な歓談のひとときにまで昇華する，こういった一面にも竜人の豊かで歴史深い文化が垣間見られるというものである．余談ではあるが，竜人の体には逆鱗と呼ばれる逆向きに生えた鱗があり，それに触れると激昂し，竜の姿に変わると広く世間では信じられている．


最後の姫に会うため、
サトウたちは
大瀑布の向こう側にある
土の国へ。
NEXT
結婚指輪物語
TALES OF WEDDING RINGS
作：めいびい
第5巻 乞うご期待!!


しかしその地はすでに滅び、
廃墟が広がるばかり…。
思い込みの激しすぎる
土の姫は、
意外な場所へ
逃げ去っていて…!?

デジタル版　Ver.1.00

BG COMICS

ビッグガンガンコミックス

結婚指輪物語④

著者／めいびい

2016年10月25日　Ver.1.00発行

発行所　株式会社スクウェア･エニックス

担当編集　小泉浩志

装幀　阿閉高尚

初出／月刊ビッグガンガン2016 Vol.03、Vol.05～Vol.07、Vol.09、Vol.10

カバー折り返し

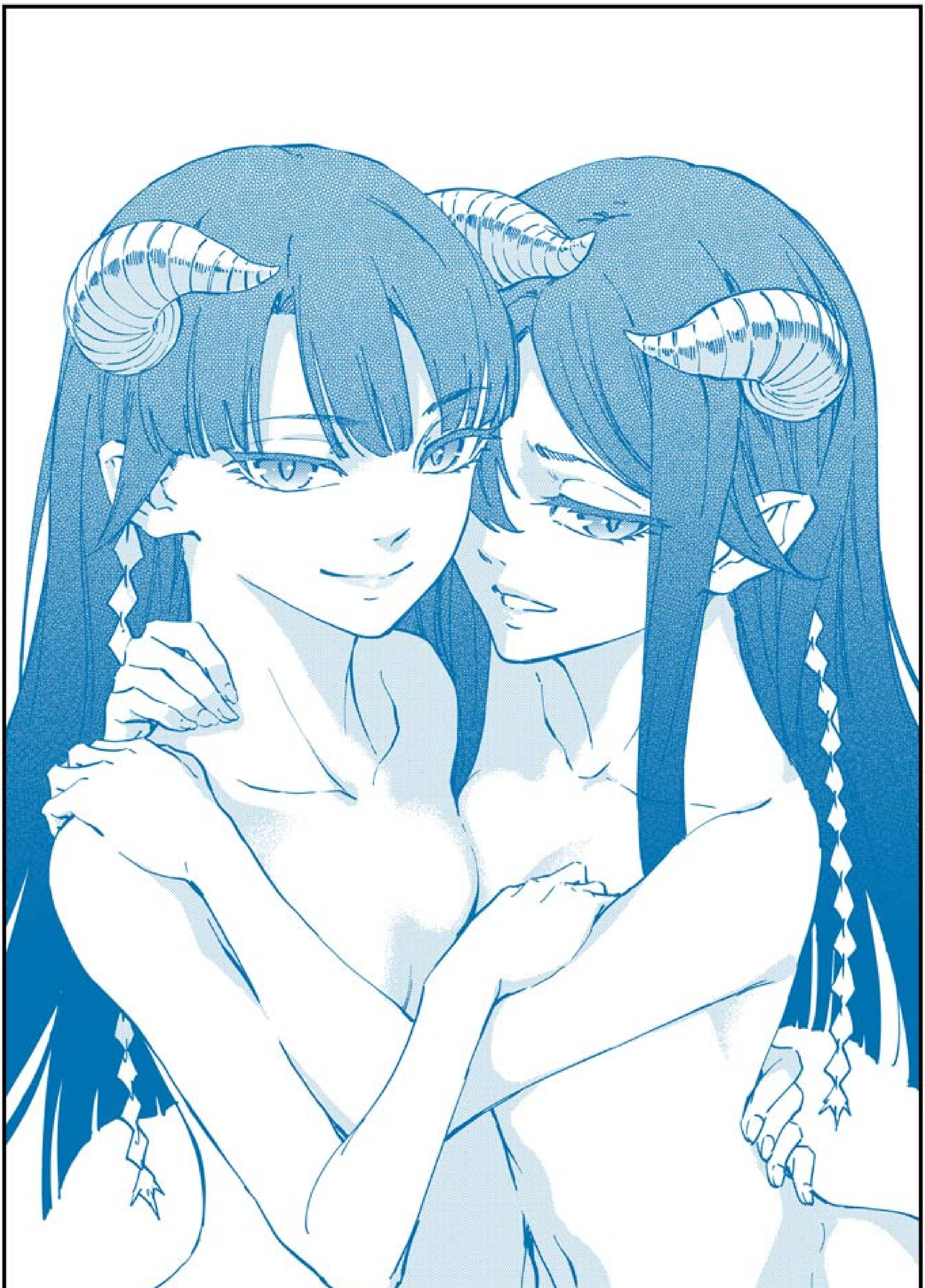


めいびい
MAYBE

そろそろサトウの指が窮屈になってきました。

※コミックス発売時のカバー折り返しを収録

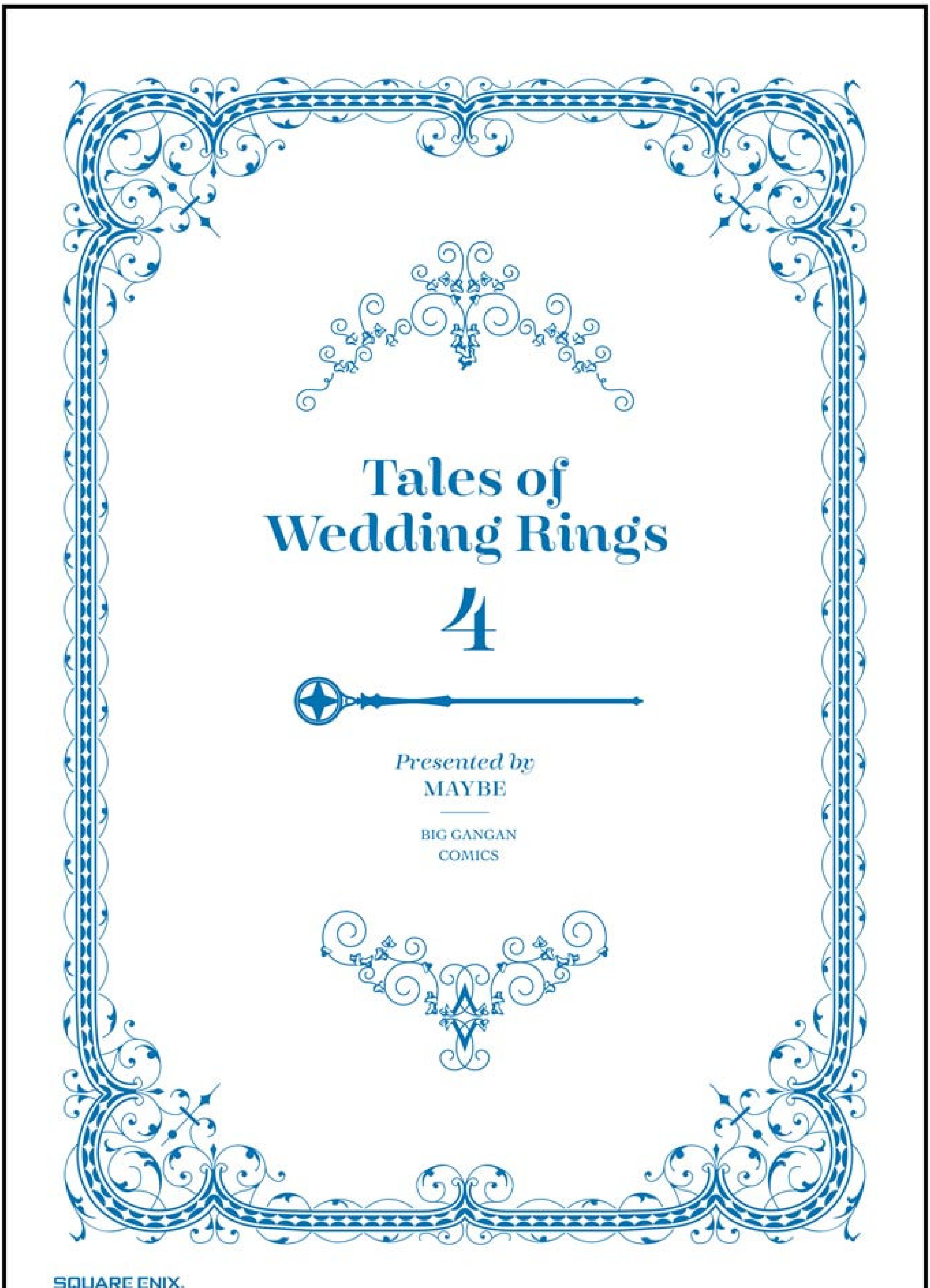
表紙 表



※コミックス発売時の表紙 表を収録

Extra Contents

表紙 裏



※コミックス発売時の表紙 裏を収録

カバー裏



Tales of Wedding Rings

結婚指輪物語

異世界で3人の妻を得たサトウは、4人目の姫を求めて水の国を訪れる。
水の指輪の姫・サフィールはいきなりサトウの妻となるが、その裏には
陰謀渦巻く王宮の情勢があった。そこに隠されたマルスの悲恋も明かされ……。
大人気異世界新婚ラブコメ、恋と友情の第4巻!!

4

Presented by
MAYBE

※コミックス発売時のカバー裏を収録